

倶多楽の火山活動解説資料（平成 23 年 4 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 6）

日和山の噴気の高さは火口縁上 50m 以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2007 年 5 月 3 日から大正地獄で発生している泥混じりの熱湯の噴出は、その後も消長を繰り返しながら継続しています（登別市による）。この現象は局所的なものであり、火山活動の活発化に直接つながるものではないと考えられます。

・ 火口及び山体内の熱の状況（図 2～5）

26 日に現地観測を実施しました。日和山の噴気温度は、2006 年までは 120℃前後で推移していましたが、2007 年以降緩やかな昇温傾向が見られ、今回の観測では 138℃と、引き続き高温の状態を維持していました。大湯沼、地獄谷等の噴気や地表面温度分布には大きな変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-②）

今期間、火山性地震や火山性微動は発生しませんでした。

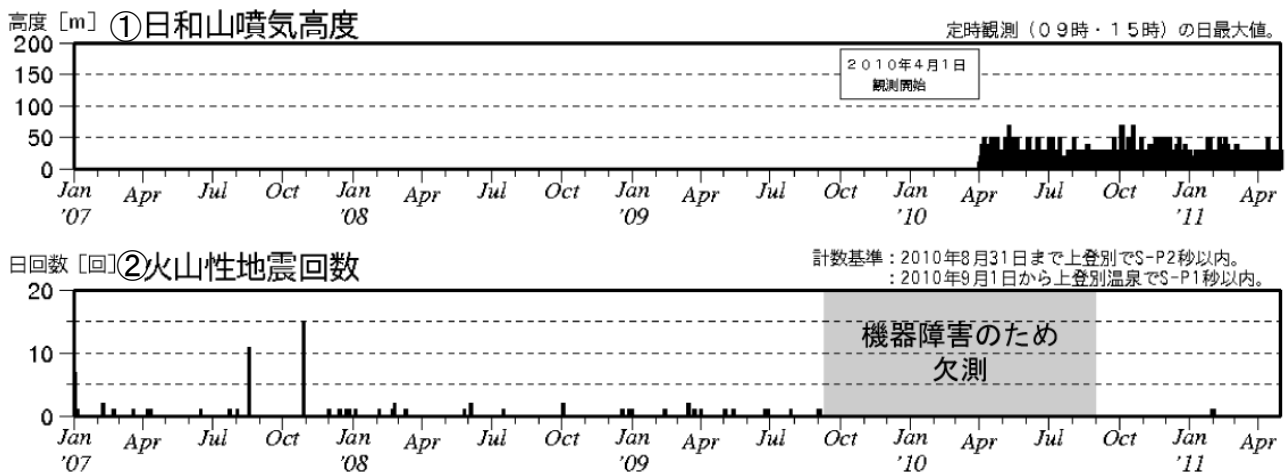


図 1 倶多楽 火山活動経過図（2007 年 1 月～2011 年 4 月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 5 月分）は平成 23 年 6 月 8 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）。また同院発行の『数値地図 25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平 20 業複、第 647 号）。



図 2 倶多楽 地獄谷の状況
(2011 年 4 月 26 日 図 3 の①方向から撮影)



図 3 倶多楽 日和山・地獄谷周辺図

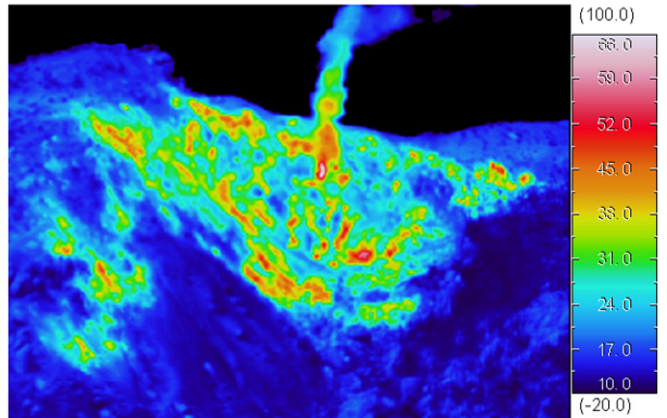
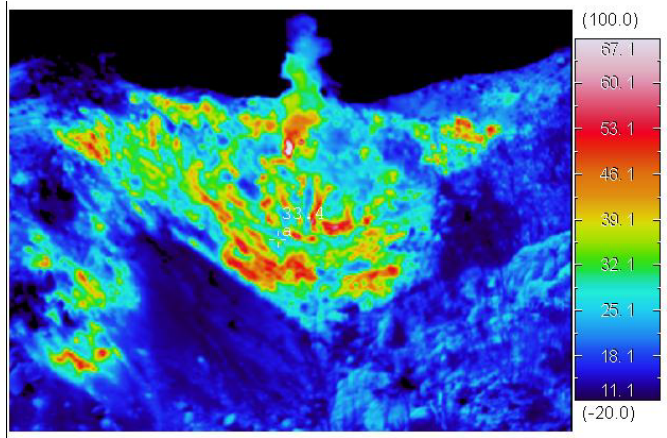


図 4 倶多楽 赤外熱映像装置¹⁾による日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布
(上段：2010 年 4 月 26 日 下段：2011 年 4 月 26 日 図 3 の②方向から撮影)

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

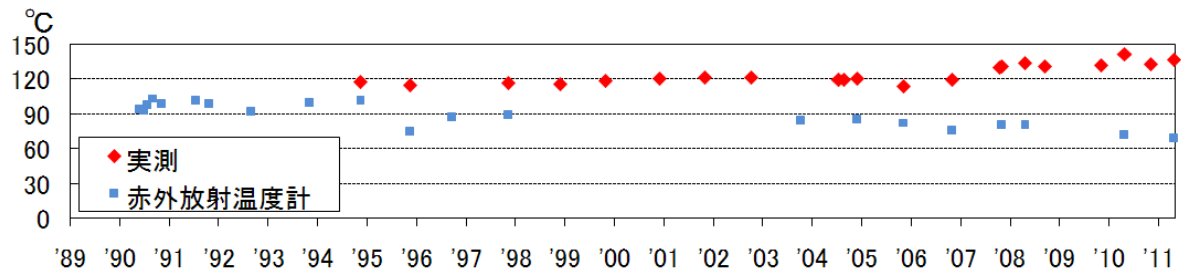


図 5 倶多楽 日和山山頂爆裂火口北西側噴気孔 噴気温度の推移

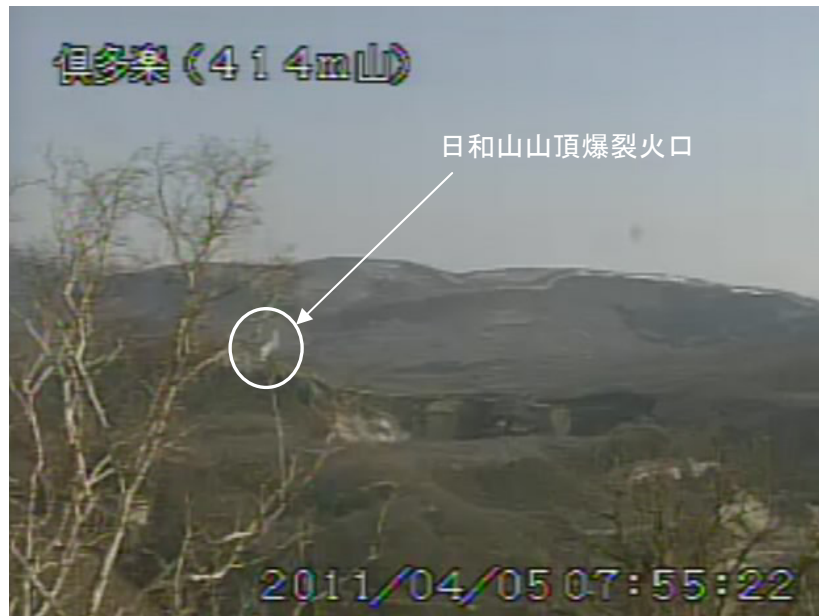


図 6 倶多楽 日和山及び大湯沼周辺の状況（4月5日、414m 山遠望カメラによる）
白丸内は日和山山頂爆裂火口の噴気

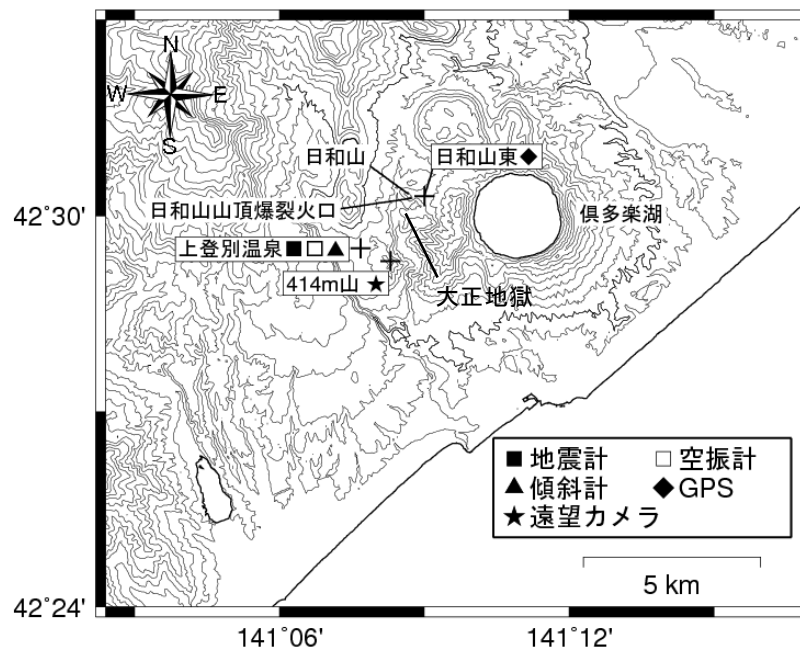


図 7 倶多楽 観測点配置図
+は観測点の位置を示す